

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2025 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 札幌市円山陸上競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 棒高跳ピット周辺を練習場所として開放する。 また、ウォーミングアップ用としてトラック外側を開放するが、くれぐれも衝突には注意し、役員の指示 には必ず従うこと。
- 3) 男女 100m 実施中にバックストレートを練習場所として開放する。
開放時間については当日アナウンスする。
- 4) 競技場入場時間は審判・開催協力校・一般入場ともに 10:00 とする。それ以前は市民大会が行われているため入場しないこと。
- 5) 競技開始前のトラック開放時の練習は、12:15 までとする。
- 6) フィールド種目は競技開始前のトラック開放時間に練習はできないため留意すること。

3. 点呼・棄権について

- 1) 競技者は指定された時間までに 1 次点呼（○付け）を行い、その後、各競技開始場所に直接集合すること。1 次点呼（○付け）・現地集合時刻は以下の通りとする。
ただし、共通男女 1500m については現地集合を 1500m スタート地点でなく、ゴール地点において行い、荷物はゴール地点に置いたままとする。

	1 次点呼	現地集合時間
トラック競技	競技開始 40 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前

- 2) 1 次点呼（○付け）場所は、**競技場内 100m スタート側の用器具庫前**に設ける。
特に 100m が行われている際にはスタートの妨げにならないよう、大声での会話は控えること。
- 3) 10000m に出場する選手は、シューズの厚さ検定と自身のレーンナンバーの書かれたビブスの配布を もって 1 次点呼とする。その点呼は 100m スタート側用器具庫にて行うため、注意すること。
- 4) 指定された時間までに 1 次点呼（○付け）を行わない、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- 5) 代理人による点呼は原則として認めない。
ただし、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。
- 6) リレー種目は、オーダー用紙（本部受付に用意）に走順・ナンバー・名前を記入し、1 次点呼（○付け）終了時刻の 1 時間前までに競技者係に提出すること。リレーメンバーの全員での点呼は行わず、オーダー提出後は競技開始の 20 分前までに各走者ごとに現地にて集合すること。
- 7) 棄権する場合は、1 次点呼の締め切り時刻までに競技者係まで申し出ること。

4. アスリートビブスについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ビブスを使用する。2025 年度のものをを使用すること。
学連ビブスは受付の際に配布するため、まだ受け取っていない大学は取りに来ること。
- 2) 中学生・高校生はそれぞれ中体連・高体連の割り当て番号によるビブスを使用すること。
- 3) 一般参加者は各登録陸協の割り当て番号によるビブスを使用すること。
- 4) エントリーの際に番号の入力がなかった参加者には主催者側で割り振っている。ビブス番号の変更については大会前日 10/3(金)12:00 までにメールにて団体名・名前・誤ビブス No・正ビブス No を送ること。
- 5) 腰ナンバー標識は各個人が用意したものを使用する。個人トラック種目出場者については右側にのみつける。4×100mR については第 4 走者のみ右側につける。

5. シューズについて

- 1) 各競技者は日本陸上競技連盟競技規則 TR 5.2 に基づいたシューズを着用すること。
- 2) WA が作成した認証済みシューズリスト (<https://certcheck.worldathletics.org/FullList>) に基づき、使用の可否を判断する。ただし、リストに不掲載の靴については競技者係で計測の上競技規則を満たしているかの判断を行う。
- 3) 10000m に参加する競技者は全員必ずレースで使用するシューズを 1 次点呼場所に持参しシューズの厚さ検定を受けること。1 次点呼を兼ねているため、検定を受けなかった場合は棄権として処理されるので注意すること。
- 4) 特に中学生に関しては履いているシューズの厚さが規定を満たしていないことが多々あるため不安な場合・スパイク以外を使用する場合は必ずシューズの厚さ検定を行うこと。

6. 競技の抽選・番組編成について

トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はアスリートランキング記載の順による。

7. 用器具について

- 1) 競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。
ただし、投擲物は 1 次点呼終了時刻 1 時間前までに本部付近で各々検査を受けて許可されたもの限り、個人所有のものを使用することができる。この投擲物は、他の競技者も使用できる。
- 2) 滑り止め（炭酸マグネシウム）は、主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参すること。

8. トラック競技について

すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。

9. フィールド競技について

- 1) フィールド種目は、全員が 3 回の試技を行い、その後各区分の Top8 のみ 1 回試技を行う。
- 2) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- 3) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記のとおりとするが、状況により変更することもあり得る。

種目	練習	試技	
男子 走高跳	1m55 1m75	1m55 より 5cm	1m80 より 3cm
女子 走高跳	1m15 1m40	1m15 より 5cm	1m45 より 3cm

- 4) 円滑な競技進行のため、試技を行う際には制限時間を遵守すること。

10. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表（アナウンス）されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから 15 分以内）に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

11. 撮影について

- 1) 競技者（選手）がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じると思われる場所からの撮影は禁止する。また、撮影をしている場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合がある。
- 2) 参加者による撮影に関しては、
 - ①所属団体（学校・クラブチーム）がわかる服装をしているもの（学生に限る）
 - ②団体受付にてまとめて団体代表者に渡す「撮影許可証」を首から下げているもののどちらかの場合のみ許可する。学生の保護者や関係者などに関しては、関係団体より撮影許可証を借りること。

12. その他

- 1) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。役員・補助員による運搬は行わない。
- 2) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2025 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- 3) 駐車券を持参の車のみ駐車場係が競技場前の駐車場に案内する。駐車券のない車及び満車の場合は近隣の有料駐車場に案内することがある。
- 4) 大会期間中に出了ゴミは、必ず各自で持ち帰ること。
- 5) 不審者・不審物等を発見したら、大会本部まで連絡すること。
- 6) その他、不明な点は大会本部まで問い合わせること。